



日サ協発第 24030008 号
2024 年 3 月 29 日

関係各位

公益財団法人日本サッカー協会

国際サッカー連盟(以下、FIFA)から 2023年 12 月 19 日付回状第 1868号をもって「2023-24年フットサル競技規則」について通達されました。

FIFA からの回状に添付されている「2023-24年フットサル競技規則 主な改正」(添付1)を本通達に添付しましたが、フットサル競技規則全文(日本語版)については準備が整い次第すみやかに展開します。これまでどおり、フットサル競技にかかわる関係者、特に競技者、監督/コーチそして審判員はこれらの改正を十分に理解した上で、プレー、指導、そしてレフェリングに携わっていただきたく、お願い申し上げます。

これらの改正等は、国際的には 2023年11月 1 日から有効となっておりますが、日本サッカー協会、各地域/都道府県サッカー協会等が主催する他の試合については、添付2のとおり適用されます。また、2020年8月25日付けで通達した「2020/21 フットサル競技規則の改正に伴う規則解釈および適用の変更について」ですが、その後規則およびその解釈の変更あり、更に国内競技会における適用の変更や和訳の修正があったため、添付3のとおり整理しましたのでご確認下さい。

各協会、連盟等において、加盟クラブ、チーム、審判員等関係者に周知徹底を図られるよう、併せてお願い申し上げます。

以上

[添付]

添付 1 : 2022-23 年フットサル競技規則 主な改正

添付 2 : 2022-23 年フットサル競技規則の適用開始日

添付 3 : 「(通達)2020/21 フットサル競技規則の改正に伴う規則解釈および適用の変更について」の変更について

公益財団法人 日本サッカー協会

〒112-0004 東京都文京区後楽 1 丁目 4-18 トヨタ東京ビル 5 階 JFA ハウス

Tel.050-2018-1990 Fax.03-3830-2005

www.jfa.jp

2023-24年 フットサル競技規則 主たる変更

競技規則変更の概要

符号: 黄色下線 = 新しい/変更された文章 ~~取り消し線~~ = 削除された文章

第1条-ピッチ

9 ゴール

(...)

ゴールは、転倒しないようにしっかりと設置しなければならないが、競技者の安全を脅かすことがないように、後方に適当な重さのウエイトを置き、ゴールを固定せずある程度動くようにしなければならない競技者等の安全を危険にさらす可能性があることから、ゴールは床面に固定してはならない。ただし、転倒を防ぐために、ゴールの後ろにウエイトを置くなど、適切な安定システムを設置しなければならない。

(...)

11 ピッチ上の広告

競技会規定で禁止されていない場合、競技者や主審・~~第2審判~~審判員を惑わす、また混乱させない、あるいは境界線の視認を妨げないのであればピッチの床面への限り、境界線から 0.75メートル以内およびピッチのマーキング上を除き、ピッチおよびテクニカルエリアの床面上の広告は、認められる。

第3条- 競技者

7 反則と罰則

(...)

主審・第2審判がプレーを停止した場合、プレーは、相手チームの間接フリーキックにより再開される。その交代要員または味方競技者がプレーを妨害した、またはその他の反則も行った場合、プレーは、「フットサルの審判員のための実践的ガイドライン」の第3条に関する「競技規則の解釈およびレフェリングに求められること」の部に示される方法に基づき再開される。

(...)

9 ピッチにいる部外者

(...)

次の者がプレーを妨害しており、プレーが停止された場合、

- ・ チーム役員、交代要員または退場で退いた競技者の場合、直接フリーキック、またはペナル

ティーキックでプレーを再開するは再開され、ファウルは、累積される。

- 外的要因による場合、ドロップボールによってプレーを再開する。

(...)

10 得点があったときにピッチに部外者がいた場合

(...)

得点后、プレーが再開される前、主審・第2審判が、得点があったときにピッチに部外者がいたことに気がついた場合、

(...)

- 得点したチームの競技者、交代要員、退場で退いた競技者またはチーム役員であった場合、その部外者がプレーを妨害したならば、プレーは、部外者がいた位置から直接フリーキック、または妨害がペナルティーエリア内であった場合はペナルティーキックでプレーを再開する再開される。ファウルは、累積される。

11 ピッチ外にいる競技者が不正にピッチに戻る

(...)

主審・第2 審判がプレーを停止した場合、プレーは次によって再開される。

- 妨害があった位置からの直接フリーキックでまたは、妨害がペナルティーエリア内であった場合は、ペナルティーキックで再開される。ファウルは、累積される。
- 妨害がなかった場合、間接フリーキックで再開される。

(...)

第4条－競技者の用具

6 反則と罰則

(...)

競技者が主審・第2審判の承認を得ずにピッチに再び入った場合、競技者は、警告されなければならない。警告をするために主審・第2 審判がプレーを停止した場合、プレーを停止したときにボールがあった位置から行われる間接フリーキックが与えられる。ただし、妨害があった場合は、妨害があった位置から直接フリーキックを行う(ペナルティーエリア内で妨害があった場合は、ペナルティーキック)。ファウルは、累積される。

第6条－その他の審判員

1 副審

(...)

2大3人の副審(第3審判、第4審判およびタイムキーパー)を任命できる。副審は、フットサル競

技規則に従って任務を遂行しなければならない。副審は、ピッチ外で交代ゾーンと同じサイドでハーフウェーラインのところに位置する。タイムキーパーは、タイムキーパー・テーブルのところに着席し、一方、第3審判および第4審判は任務を遂行するにあたって、立っていても、座っていても良い。

タイムキーパーと、第3審判および第4審判は、協会または試合を所管するクラブが提供する精密な時計および累積ファウルを記録するために必要な機器を用いる。また、主審・第2審判よりも明らかに見える場合は、反則について援助することができる。

(...)

2 職権と任務

(...)

タイムキーパーは、

第7条の規定に基づき、次により試合時間を確保する。

- (...)
- リザーブ副審第4審判が割り当てられておらず第3審判が置かれていないときに不在となった場合、第3審判が行うべき任務を果たす。
- (...)

4 リザーブ副審(RAR)第4審判

リザーブ副審第4審判は、競技会規定に基づき割り当てられることができる。その役割と任務は、フットサル競技規則に規定される条項に基づくものでなければならない。

リザーブ副審第4審判は、

- 主審・第2審判または第3審判のいずれかが試合の審判を開始または続行することができなくなった場合、第3審判に代わる。また、必要あれば、タイムキーパーとも代わるることができる。
- 試合前、試合中または試合後、主審・第2審判の要請に従って、管理運営上の任務を含め、常に主審・第2審判および第3審判を援助する。
- 試合後、主審・第2審判の視野外で起きた不正行為またはその他の出来事について関係機関に報告する。また、その他の報告書の作成において、主審・第2審判を援助する。
- 試合前、試合中または試合後に起きたすべての出来事を記録する。
- 何らかの出来事が起きたときに必要になる予備の手動式ストップウォッチを携帯する。
- 試合に関する適切な情報を提供し、主審・第2審判および第3審判を援助できるよう、タイムキーパーの近くにポジションをとる。

第7条－試合時間

2 プレーのピリオドの終了

各ピリオドは、プレーイングタイムで 20 分間経過した時に終了する。延長戦が行われる場合、延長戦の各ピリオドは、プレーイングタイムで指定された時間が経過した時に終了する。

タイムキーパーは、20 分間のピリオド(および延長戦の各ピリオド)の終りをそれぞれ音により各ピリオド、また、延長戦が行われるときには、延長戦の各ピリオドの終了を主審・第2審判が用いるものと異なった笛や音で合図する。

- 主審・第2審判が終了の合図の笛を吹かない場合でも、吹かなかった場合であっても、タイムキーパーが不在、または機器の故障によりタイムキーパーからの合図が鳴らなかった場合を除き、音による合図があったとき、ピリオドは終了する。タイムキーパーからの合図がない場合、主審・第2審判はプレーイングタイムで 20 分間、または延長戦の指定された時間が経過したことを確認し、それぞれの笛で各ピリオドの終了を合図する。
- (...)

3 タイムアウト

チームは、各ピリオドそれぞれ1回、1分間のタイムアウトをとることができる。

次の条件が適用される。

- チーム役員は、第3審判に、また、第3審判がいない不在の場合はタイムキーパーに事前に渡された用紙を用いて、1分間のタイムアウトを要求することができる。
- タイムキーパーは、ボールがアウトオブプレーで、タイムアウトを要求しているチームがボールを保持しているプレーの再開を行う、またはドロップボールを受けるときに、主審・第2審判が用いるものと異なった笛や音で合図し、タイムアウトを与える。
- (...)

第8条－試合時間

1 キックオフ

進め方

- 主審がコインをトスし、トスに勝ったチームが第1または第2ピリオド、また延長戦が行われるとき、その第1または第2ピリオドのどちらでキックオフを行うのかを決める。
- 競技会規定に定められていない限り、ホームチームが第1ピリオド、また延長戦が行われるとき、その第1ピリオドにどちらのゴールを攻めるのかを選択する。
- (...)

第10条 – 試合結果の決定

2 勝利チーム

(…)

試合またはホームアンドアウェーの対戦が終了し、競技会規定として勝者を決定する必要がある場合、次の方法のみが認められる。

- アウェーゴールルール
- それぞれ5分間以内で同じ時間の2つのピリオドからなる延長戦
競技会規定は、同じ時間の2つのピリオドの長さについて、定めなければならない。
- ペナルティーマークからのキックPK 戦(ペナルティーシュートアウト)

上記の方法を組み合わせることができる。

3 ペナルティーマークからのキックPK 戦(ペナルティーシュートアウト)

試合後にペナルティーマークからのキックPK 戦(ペナルティーシュートアウト)が行われるとき、他に規定されていない限り、フットサル競技規則の関係諸条項が適用される。

ペナルティーマークからのキックPK 戦(ペナルティーシュートアウト)は、試合の一部ではない。

試合中に退場を命じられた競技者のキックへの参加は認められないが、試合中、またはどちらのチームが最初にキックをするかどうかを決めるコイントスの前までに示された注意や警告は、ペナルティーマークからのキックPK 戦(ペナルティーシュートアウト)に繰り越されない。

進め方

ペナルティーマークからのキックPK 戦(ペナルティーシュートアウト)の開始前

- 主審は、その他に考慮すべきこと(例えば、ピッチの状態、安全、カメラの設置など)がない限り、または、競技会規定に特に定める場合を除き、コインをトスしてキックを行うゴールを決定する。
- 主審はコインをトスし、トスに勝ったチームが先にけるのか後にけるのかを決める。
- チームベンチの位置は、第2ピリオド、または、延長戦が行われた場合は延長戦の第2ピリオドのときの位置から変えない。
- 試合または延長戦の終了時に負傷しているにより、または退場を命じられて、試合から退いた競技者を除き、すべての競技者および交代要員がキックを行うに参加する資格がある。
- 各チームの責任の下、資格のある競技者および交代要員からキッカーを選び、キックを行う順番を決める。順番を、主審・第2 審判に通知するされる必要はない。
- 試合が終了したとき、または延長戦が行われた場合は延長戦が終了したとき、ペナルティ

一マークからのキックを行うPK 戦(ペナルティーシュートアウト)が始まる前に一方のチームの競技者数(交代要員を含む)が相手チームより多い場合、競技者数の多いチームは試合終了時のときの競技者数のままとすることも、相手の競技者数と等しくなるように競技者数を減らすこともできる。除外する場合、除外するそれぞれの競技者の氏名と番号は、主審・第2 審判に通知されなければならない。除外された競技者は、キッカーとしてまたはゴールキーパーとしてのいずれであっても、キックPK 戦(ペナルティーシュートアウト)に参加する資格がない(下記の場合を除く)。

- ペナルティーマークからのキックPK 戦(ペナルティーシュートアウト)の前または進行中にゴールキーパーがプレーを続けられなくなったとき、ゴールキーパーは競技者数を等しくするために除外された競技者または交代要員と入れ替わることができる。しかし、ゴールキーパーは、それ以降ペナルティーマークからのキックPK 戦(ペナルティーシュートアウト)に参加できず、キッカーを務めることもできない。
- ゴールキーパーが既にキックを行っていた場合、入れ替わって参加したゴールキーパーは、次の一巡までキックを行うことができない。

ペナルティーマークからのキックPK 戦(ペナルティーシュートアウト)の進行中

(...)

- ペナルティーマークからのキックがPK 戦(ペナルティーシュートアウト)の進行中に、一方のチームの競技者数が相手チームより少なくなった場合、競技者数のより多いチームはそのときの競技者数のままとすることも、相手競技者数と等しくなるように競技者数を減らすこともできる。除外する場合、除外するそれぞれの競技者の氏名と番号は、主審・第2 審判に通知しなければならない。除外された競技者は、それ以降、キッカーとしてまたはゴールキーパーとしてのいずれであっても、キックに参加することができない(上記の場合を除く)。

次の条件に従って、両チームが5本ずつのキックを行う。

- (...)
- ペナルティーマークからのキックは、競技者がピッチから離れたことで遅らせてはならない。競技者がキックを行うまでに戻らない場合、そのキッカーのキックは無効(無得点)となる。

ペナルティーマークからのキックPK 戦(ペナルティーシュートアウト)が進行中の交代および退場

第12条－ファウルと不正行為

2 間接フリーキック

(...)

ボールコントロールの4秒のカウントに関して、ゴールキーパーがボールを手でコントロールしていると判断されるのは、次のときである。

- ボールがゴールキーパーの両手で持たれているもしくは両足間にあるとき、またはボールがゴールキーパーの手もしくは足と他のもの(例えば、ピッチ面、自分の体)との間にあるとき、またはボールに手や腕または足のいずれかの部分で触れているとき。
- ゴールキーパーが広げた手のひらでボールを持っているとき。
- ボールをピッチ面にバウンドさせる、または空中に投げ上げたとき。
- 手また足でボールをドリブルしているとき。

3 懲戒処置

反スポーツ的行為に対する警告

競技者が反スポーツ的行為で警告されなければならない状況は、様々である。例えば、

- (...)
- 相手の大きなチャンスとなる攻撃を妨害または阻止するために反則を行う、ただし、ボールをプレーしようと試みて、または、ボールに向かうことで(相手競技者に)チャレンジして反則を行い、主審・第2審判がペナルティーキックを与えた場合を除く。
- ボールをプレーしようと試みて、または、ボールに向かうことで(相手競技者に)チャレンジして反則を行い相手競技者の決定的な得点の機会を阻止し、主審・第2審判がペナルティーキックを与える。
- (その試みが成功しようとしまいと)ボールを手や腕で扱って得点をしようと試みる、または得点を阻止しようと試みて失敗する。
- ゴールがゴールキーパーによって守られているときに、意図的なハンドの反則によってゴールに向かっているボールを止める。
- (...)

得点または決定的な得点の機会の阻止(DOGSO)

(...)

競技者が自分自身のペナルティーエリア内で相手競技者に対して反則を行い、相手競技者の決定的な得点の機会を阻止し、主審・第2審判がペナルティーキックを与えた場合、その反則がボールをプレーしようと試みて行われた反則だった場合、または、ボールに向かうことで(相手競技者に)チャレンジして行われたものならば、反則を行った競技者は警告される。それ以外のあらゆる状況(押さえる、引っばる、押す、またはボールをプレーする可能性がないなど)においては、反則を行った競技者は、退場させられなければならない。

(...)

ゴールキーパーによってゴールが守られておらず、他の DOGSO の基準に合致していた場合で、

アクティブな攻撃側競技者の数が、反則を行った競技者を除き、アクティブな守備側競技者の数と同じまたはより多い場合、DOGSO の状況にあると考える。

守備側競技者がボールにプレーしようと試みず、または、ボールに向かうことで(相手競技者に)チャレンジせずに反則を行い(例えば、押さえる、引っばる、押す、またはボールをプレーする可能性がないなどで)、アクティブな攻撃側競技者の数が、反則を行った競技者を除き、アクティブな守備側競技者の数より多い場合、ゴールがゴールキーパーによって守られていたとしても、DOGSO の状況にあると考えなければならない。

交代要員、退場で退いた競技者またはチーム役員が、ハンドの反則またはフリーキックで罰せられる反則により手や腕、または足を含むその他の体の一部で行った反則によって、相手チームの得点または決定的な得点の機会を阻止した場合、第3条の規定に基づき競技者数を少なくする。

(...)

チーム役員

テクニカルエリアに入ることのできる交代要員、退場になった競技者またはチーム役員による反則があり、その反則を行った者を特定できない場合、テクニカルエリア内にいる上位のコーチが罰則を受ける。

第13条 – フリーキック

4 累積ファウル

- 累積ファウルは、第3条、第4条および第12条に特定された直接フリーキックまたはペナルティーキックで罰せられるファウルである。
- (...)

5 各ピリオド6つ目以降の累積ファウルに与えられる直接フリーキック(DFKSAF)

(...)

進め方

- 守備側ゴールキーパーは、ボールがけられるまで、ボールから少なくとも5m 離れていなければならないが、キッカーを不正に惑わすような行動をとってはならない。例えば、キックを遅らせる、ゴールポスト、クロスバーまたはゴールネットに触れる。

(...)

反則と罰則

(...)

競技者がより重大な反則(例えば、認められていないフェイント)を行った場合を除き、両チームの競技者が反則を行った場合、キックは再び行われる。反則した競技者はその試合において最初の反則については注意が与えられる。以降、同じ競技者が反則を行った場合、その競技者は警告される。競技者がより重大な反則(例えば認められていないフェイント)を行った場合、相手に間接フリーキックが与えられ、反則を行った競技者は注意されることなく、警告される。

第14条－ペナルティーキック

1 進め方

(...)

守備側ゴールキーパーは、ボールがけられるまで、ゴールポスト、クロスバーまたはゴールネットに触れず、キッカーに面して、両ゴールポストの間のゴールライン上にいなければならないず、キッカーを不正に惑わすような行動をとってはならない。例えば、キックを遅らせる、ゴールポスト、クロスバーまたはゴールネットに触れる。

(...)

2 反則と罰則

(...)

- 守備側ゴールキーパーの味方競技者が反則を行い、
 - ボールがゴールに入った場合、得点が認められる。
 - ボールがゴールに入らなかった場合、キックは、再び行われる。反則を行った競技者は、その試合において最初の反則であれば注意が与えられ、その試合でひき続き反則を行った場合は、警告される。
- 競技者がより重大な反則(例えば不正なフェイント)を行った場合を除き、両チームの競技者が反則を行った場合、キックは、再び行われる。反則した競技者はその試合において最初の反則については注意が与えられる。同じ競技者がその試合でひき続き反則を行った場合は、警告される。また、競技者がより重大な反則(例えば、不正なフェイント)を行った場合、相手競技者に間接フリーキックが与えられ、反則を行った競技者は注意されることなく、警告される。

(...)

第15条－キックイン

2 反則と罰則

(...)

その他の反則があったならば、キックインが4秒以内に行われなかった場合、キックインが行われたときキッカーの味方競技者がピッチの外にいた場合も含めて、相手チームにキックインが与えられる。

第17条 - コーナーキック

2 反則と罰則

(...)

その他の反則があったならば、コーナーキックが4秒以内に、またはコーナーエリア内から行われない場合を、コーナーキックが行われたときキッカーの味方競技者がピッチの外にいた場合も含めて、ゴールクリアランスが相手チームに与えられる。

ビデオサポート(VS)の実施手順

1 原則

(...)

勝者を決定するためにペナルティーマークからのキッカーPK 戦(ペナルティーシュートアウト)が行われる場合、各チーム PK 戦(ペナルティーシュートアウト)中に追加してチャレンジすることができるが、一度失敗した場合、以降チャレンジすることはできない。試合中(延長戦を含む)に使われなかったチャレンジをペナルティーマークからのキッカーPK 戦(ペナルティーシュートアウト)に持ち越すことはできない。

フットサル審判員のための実践的ガイドライン

6 . プレーの開始や再開におけるポジショニング

18A. 試合またはホームアンドアウェーの対戦の勝者を決定するためのペナルティーマークからのキッカーPK 戦(ペナルティーシュートアウト)(リザーブ副審第 4 審判がいない場合)

(...)

すべての審判員が、ペナルティーマークからのキックについて、また、キックを行った競技者の数を記録する。

18B. 試合またはホームアンドアウェーの対戦の勝者を決定するためのペナルティーマークからのキッカーPK 戦(ペナルティーシュートアウト)(リザーブ副審第 4 審判がいる場合)

リザーブ副審第 4 審判が割り当てられている場合、審判員のポジションは、次のとおりとする。

(...)



すべての審判員が、ペナルティーマークからのキックについて、また、キックを行った競技者の数を記録する。

競技規則の解釈およびレフェリングに求められること

第3条 — 競技者

交代要員

(…)

- 主審・第2 審判がアドバンテージを適用した場合、
 - 交代要員のチームがボールを保持したところでプレーを停止し、相手チームの間接フリーキックでプレーを再開しなければならない。間接フリーキックは、プレーがペナルティーエリア内で停止された場合を除き(第 13 条参照)、プレーを停止したときにボールがあった位置から行われる。
 - その後、交代要員のチームが間接フリーキック、直接フリーキックまたはペナルティーキックで罰せられる反則を行ったのであれば、または、交代要員がプレーを妨害したら、その反則に応じ、相手チームに間接フリーキック、直接フリーキックまたはペナルティーキックを与え、交代要員のチームを罰する。必要であれば、行われた反則の程度に応じ懲戒処置を講じるとる。

(…)

ピッチから出る(認められる)

通常の交代に加え、競技者は次の状況において、主審・第2審判いずれかによる承認を得ることなく、ピッチを離れることができる。

- ボールをプレーして、相手をドリブルで抜き去るときなど、プレーの動きの一環として、ピッチ

から出てすぐにピッチに戻る。しかしながら、相手競技者を騙す目的でピッチを出て、ゴールの裏を回ってピッチに戻ることは認められない。この行為が行われた場合、アドバンテージが適用できないならば、主審・第2審判はプレーを停止する。プレーを停止したならば、間接フリーキックでプレーを再開し、反則を行った競技者は、主審・第2審判の承認を得ずピッチから出た反スポーツ的行為を行ったことで警告される。

第5条 — 主審・第2審判

職権と任務

(…)

主審・第2審判は、ハーフタイムのインターバル、試合終了、または延長戦もしくはペナルティーマークからのキックPK戦(ペナルティーシュートアウト)において、競技者やチーム役員を警告する、またはこれらに退場を命じる権限を持っている。

アドバンテージ

(…)

反則が相手チームの決定的な得点の機会を阻止したものであった場合、競技者は、反スポーツ的行為で警告される。反則が相手の大きなチャンスとなる攻撃を妨害または止めた阻止したものであった場合、競技者は、警告されない(第12条 アドバンテージを参照)。しかしながら、

- 反則が無謀なチャレンジまたはホールディング戦術的にホールディングするようなタクティカルファウルであった場合、反則を行った競技者は、警告されなければならない(下記、第12条に関する条項を参照)。

(…)

負傷

競技者の安全確保は最も重要であり、主審・第2審判は、特に重篤な負傷重傷や頭部の負傷を判断する場合にはその判断において、メディカルスタッフの作業を促す必要がある。これは合意された判断/治療プロトコルをリスペクトし、援助することが含まれるが負傷者に対応できるようにすべきである。これには、関係者の合意を得た負傷の判断または処置の手順に従い、援助していくことも含まれる。

ただし、一般的なガイドとして、重篤な負傷重傷や頭部の負傷を判断する場合を除いてその程度の判断を除き、誰もがプレーの再開の用意ができたところから、20～25秒以上再開を遅らせてはならないかけるべきではない。

第6条 — その他の審判員

4. ペナルティーマークからのキックPK戦(ペナルティーシュートアウト)

リザーブ副審第4審判が置かれていない場合、第3審判は、キックに参加できる競技者および交

交代要員と共に、ピッチ内でペナルティーマークからのキックPK 戦(ペナルティーシュートアウト)が行われない方のハーフ内にポジションをとらなければならない。第3審判は、その位置から競技者の行動を監視すると共に、各チーム、資格のあるすべての競技者および交代要員がキックをし終える前に、キックを終えた競技者が2回目のキックを行わないようにする。

リザーブ副審第4審判が置かれている場合、主審・第2審判およびその他の審判員のポジショニングは次のとおりとなる。

(...)

リザーブ副審第4審判は、センターサークル内にポジションをとらなければならない、資格のあるすべての競技者および交代要員をコントロールする。

(...)

タイムキーパーは、タイムキーパー・テーブルのところにポジションをとらなければならない、

- ・ キックから除外された競技者や交代要員およびチーム役員が正しく行動できるようにする。
- ・ スコアボード上の得点表示を0-0にリセットし、その後、キックの結果を表示する。

すべての審判員が、ペナルティーマークからのキックの結果、また、キックを行った競技者の数を記録する。

第7条 — 試合時間

タイムアウト

競技者やチーム関係者にタイムアウトの終了が近づいていることを知らせるために、タイムアウトの終了を示す合図の 10~15 秒前に音による合図を鳴らすことを競技会規定に定めることが推奨される。しかしながら、交代は、最初の音による合図の後ではなく、タイムアウトの終了後に行わなければならない。

第12条 — ファウルと不正行為

ボールを手や腕で扱う

競技者が手や腕で偶発的にボールに触れた直後に相手競技者のゴールに得点した場合、間接フリーキックが相手競技者に与えられる。しかしながら、

- ・ 手や腕が競技者の体を不自然に大きくしていない場合でボールがゴールに入らなかったならば、プレーは続けられる。
- ・ ボールがゴールラインを越えて外に出たならば、ゴールクリアランスが相手競技者に与えられる。

“直後”とは、ハンドの反則が行われた場所からゴールまでの距離および、または偶発的なハンドの反則からゴールが決まるまでの時間とは直接的に関係しない。ボールが得点者以外の競技者

によってプレーされることなく、競技者が、ボールが手や腕に触れた後に得点した場合、そのゴールは無効とされなければならない。

(...)

繰り返して反則する

(...)

ゴールを利用する、または、味方競技者の援助を得る

意図的にゴールを利用する、または、味方競技者の援助を得てプレーすることは、次の場合を含めて認められない。

- クロスバーにぶら下がる。
- 有利な位置をとるためにゴールをける、または押す。
- 有利な位置をとるために味方競技者に持ち上げられる。
- 有利な位置をとるために味方競技者に押される。

競技者がこのような反則を行った場合、警告されなければならない、間接フリーキックが相手チームに与えられる(第 13 条を参照)。 競技者が相手競技者の得点または明らかな得点機会を阻止するためにこのような反則を行った場合、退場が命じられなければならない、相手チームに間接フリーキックが与えられる(第 13 条を参照)。

決定的な得点の機会の阻止(DOGSO)

ゴールが守備側ゴールキーパーによって守られていないときに、DOGSO の状況かどうかを判断するにあたり、次の要素を考慮に入れなければならない。

- 反則が行われた場所とゴールとの距離
- 全体的なプレーの方向
- ボールをキープできる、またはコントロールできる可能性
- ゴールキーパーおよびアクティブな守備側フィールドプレーヤーの位置と数
- 反則を行った競技者を除く守備側ゴールキーパーを含むアクティブな守備側競技者の数とアクティブな攻撃側競技者の数
 - 守備側競技者は、積極的にプレスをかけたり、攻撃側競技者にチャレンジしたり、ボールをインターセプトしたりするなど、相手の攻撃に介入する機会があるような場合にはアクティブであるとみなされるべきである。
 - 攻撃側競技者は、攻撃に参加する明確な機会があるような場合、アクティブであるとみなされるべきである。
- 反則を行った競技者がボールにプレーしようと試みて、またはボールに向かうことで(相手競技者に)チャレンジして反則を行ったのかどうか(押さえる、引っぱる、押す、またはボールをプレーする可能性がないチャレンジは、正当に、ボールをプレーしようと試みる、またはボールに向かうことで(相手競技者)にチャレンジしたとはみなされない)。

(…)

フットサル用語

アクティブな攻撃側競技者と守備側競技者 (Active attacking and/or defending players)

そのときのプレーに参加している、またはプレーに関わる可能性が高い競技者

ペナルティーマークからのキック (Kicks from the penalty mark) PK 戦 (ペナルティーシュートアウト) (Penalties (penalty shoot-out))

各チームが交互にキックを行い、同数のキックをする中で、より多く得点したチームを勝利とする試合結果の決定方法(両チームが5本のキックを行う以前に、他方が5本のキックを行ってもあげることができない得点を一方のチームがあげた場合、以後のキックは行われぬ)。

すね当て (Shinguard)

競技者がすねを負傷から守れるように着用する用具のひとつ。それ相応に保護することができるよう、競技者は適切な材質でできた、妥当な大きさのすね当てを着用する責任がある。すね当ては、ソックスによって覆われていなければならない。

シャツ (Shirt)

チームのユニフォームのひとつとして、競技者が上半身に着用する衣類。袖の長さ(長袖か半袖か)は除き、すべての競技者のシャツは同じである。ただし、ゴールキーパーのシャツは、ゴールキーパー以外の競技者と審判員のシャツと区別できるものになる。

タクティカルファウル (Tactical foul)

タクティカルファウルは、カウンターアタックや相手競技者が相手ゴールを攻撃するための時間とスペースを持っているときの可能性を防ぐための戦術として、意図的に行われる。

審判用語

その他の審判員 (Other match officials)

(…)

リザーブ副審 (Reserve assistant referee) 第 4 審判 (Fourth referee)

- 第3審判と共にチーム役員や交代要員をコントロールする、累積ファウルなどの試合の記録をとる、また判定について主審・第2審判を援助する。また、第3審判またはタイムキーパーが職務を遂行できなくなったときに、これらに代わる副審。

2023-24 年フットサル競技規則の適用開始日について

各リーグや各種競技会における 2023-24 年フットサル競技規則の適用開始日は、以下とする。

リーグ	適用開始日	備考
F リーグ	2024 年 4 月 1 日 (月)	
日本女子フットサルリーグ	2024 年 4 月 1 日 (月)	

JFA が主催する競技会	適用開始日	備考
各種全国大会 (決勝大会)	原則 2024 年 4 月 1 日 (月)	現競技規則・新競技規則 (2023-24 年) のどちらを適用するかを競技会毎に確認し、競技会規定等に明記する。また、代表者会議や監督会議、マッチコーディネーションミーティングの都度確認する。

上記以外の競技会	適用開始日	備考
地域・都道府県 FA が主催する各種大会	遅くとも 2024 年 6 月 1 日 (土)	大会主催者が適用開始日を決定する。

「(通達)2020/21 フットサル競技規則の改正に伴う規則解釈および適用の変更について」
の変更について

2020/21 フットサル競技規則が変更されたときに、規則およびその解釈の変更に伴い「2020/21 フットサル競技規則の改正に伴う規則解釈および適用の変更について(審 20-0191 号)」を通達しました。その後、更に規則およびその解釈の変更や、国内競技会における適用の変更、また和訳の修正があったため、あらためて下記の通り変更します。

符号:黄色下線=新しい/変更された文章 取り消し線=削除された文章

2 . テクニカルエリアの使用

(1) テクニカルエリア(以降、「エリア」)に入ることのできる者

大会(リーグ)規定に定められた交代要員およびチーム役員数の範囲内で、試合のために届けられた者および交代して退いた競技者のみとする。

(2) 戦術指示

- ・ 試合中、エリアに入ることのできる者の中から、その都度ただ1人のチーム役員のみが、エリア内において指示を与えることができる。
- ・ 戦術的指示を与えるチーム役員者は、責任ある態度で行動する限り、戦術的指示を行った後であってもベンチに戻る必要はない。

(3) エリア外の活動

- ・ エリア内に入る者は、ハーフタイム時を除き、試合中は常にエリア内にとどまっていなければならない。ただし、交代要員およびフィットネスコーチは、競技者や主審・第2 審判の動きを邪魔せず、責任ある態度で行動する限り、ウォームアップのためにウォームアップエリアに入ることができる。
- ・ チーム役員は、主審・第2審判が承認した場合、競技者の負傷対応のためにピッチ内に入ることができる。

5 . 主審・第2審判の位置するサイドの交替

ピッチのベンチ側半分で警告、退場を命じた場合、ベンチサイドからのプレッシャーを回避するため、主審・第2審判は自動的にサイドを変えることができる。

8 . 飲水

競技中の飲水は、つぎのように行う。

- ・ ピッチ内での飲水は、ボールがインプレー、アウトオブプレーにかかわらず、認められない。飲水が必要な競技者は、タイムアウトや自由な交代を利用して自分のベンチにおいて飲水

する。

- 飲料は水のみとし、スポーツドリンク等は、認められない。
- ・ 施設内で飲水を認めない等、施設管理上の別規定がある場合、それに従う。
- ・ ゴールキーパーの飲水については、大会(リーグ)規定の飲水タイム等にかかる規定に基づき行うことができる。

9.15 12 歳以下の競技会におけるゴールキーパースロー等

15 歳(第3種)以下のフットサル競技会における「ゴールキーパーのスロー等」については、それぞれ財団法人日本サッカー協会発信の、「2003 年6月6日、第3種以下の競技会におけるフットサル競技規則の適用について」、「2003 年7月 15 日、第3種以下の競技会におけるフットサル競技規則の適用について(補足)」および「2005 年2月 17 日、第3種以下の競技会におけるフットサル競技規則の適用について(その2)」に基づき、適用されてきたが、「2023 年6月19日、第 3 種の競技会におけるフットサル競技規則適用解除およびピッチサイズ変更について」の発信により第3種の競技会は適用解除とし、12 歳(第4種)以下は、引き続き次のとおり、適用する。

(1)第8 条 - プレーの開始および再開

- ・ キックオフから直接得点することはできない。

(2)第 12 条 - ファウルと不正行為、第 16 条 - ゴールクリアランス

- ・ ゴールキーパーが投げた、またけたボールが直接ハーフウェーラインを越えた場合、間接フリーキックが相手チームに与えられ、間接フリーキックはボールがハーフウェーラインを越えた場所から行われる。